

Profile
プロフィール —

川奈ゴルフ出身のプロゴルファーの中には、コース設計の分野で一流と折り紙をつけられたプロが何人かいる。その一人の村上義一氏。村上氏は1913（大正2）年、山本増二郎氏や石井茂氏と同じく静岡県の生まれで1928（昭和3）年ごろからゴルフ界にご縁ができ、その時代から終戦の年まで川奈ホテルに勤務した。その後、在日米軍専用になった山中湖ゴルフ場の復旧工事に関係し、熱海のゴルフコースにもご縁があった。その後、米軍の根岸（横浜）のゴルフ場を経て相模原ゴルフクラブの専属になった。

村上氏を相模原GCに誘ったのは同ゴルフ場のオーナーだった小寺酉二氏で、村上氏が戦後、ゴルフ場の普及工事や再建工事を経験しているところに着目した。相模原GCは1954（昭和29）年ごろからコース建設が始まり、村上はコース建設の中核を担った。相模原GCは18ホール（現在の東コース）で開場した。1960（昭和35）年には18ホール（現在の西コース）が完成し36ホール擁する関東有数のゴルフクラブとなった。



村上氏はその後、コースの復旧工事や改修工事で身に着けた経験を生かし、**岐阜県下の愛岐カントリークラブ**、**日本ラインゴルフ倶楽部**を手掛け、静岡県下では**愛鷹シックスハンドレッドクラブ**などを完成させ、設計家としての地位を確立している。

